臨床・障害 5 (939~947)

座長 中西信男・高久信一

- 939 心身症のロールシャッハ反応
——神経症との比較から——
京都大学 菅野信夫
- 940 ロールシャッハ・テストにおけるR+%の基礎的研究
日本大学 高久信一
- 941 シゾフレニーのロールシャッハ反応
——ロールシャッハ・テストによる分類——
大阪大学 中西信男
- 942 人物画による分裂病研究 (1)
栗田病院 市間洋子
- 943 // (2)
中京大学 空井健三
- 944 家屋画2面法による boundary 概念の検討
——精神分裂病者を対象として——
京都大学 井上亮
- 945 免罪徳島事件の心理学的分析 (7)
——電灯線切断時刻の誤認と免罪の発生——
近畿大学 小田信男
- 946 青年期のロールシャッハ研究 (1)
——Anorexia nervosa の分析
帝京大学 中野明德
- 947 課題遂行時の心拍反応への言語ストレスの与える効果
筑波大学 山口正二

(質疑応答・討論)

本研究発表には、発表者を含めて50名以上が参加して、質疑応答・討論が行われたが、これらを発表者順に整理してのべる。

939 (菅野) の発表については、中西 (阪大) より心身症と神経症の防衛機制の相違がロールシャッハ反応にあらわれているかという質問がなされ、これらは今後検討したい旨の回答があった。

940 (高久) に対しては、テストの実施者の経験年数が質問されたが、共同研究者により実施され、経験は2年ぐらいであるという回答があった。

941 (中西) に対しては、宮野 (千葉大) より、Q技法を用いて、被験者間の共通性をもとめ、その共通性をもとに項目間の関係、共通性を明らかにし、被験者の型を検討してみてもよかったのではないかという質問がなされたのに対して、Q技法とR技法でもとめられた各因子得点から、相互の関係を考察して行きたいと答えられ

た。

942 (市間) および943 (空井) の発表については中西 (阪大) より、テスト施行について質問があり、集団的に施行し、患者の任意の参加をみとめ、一種のレクリエーションとして毎月施行し、そのうち、入院時と退院時の人物画を比較した、という回答があった。

さらに、男子群に一枚目の人物画に異性を書く割合が退院時に増加している理由として、自他の識別ができ、さらに性的同一性が明らかにされる過程でみられる現象と解釈されるとのべられた。また児童画との比較では、分裂病を単純に退行と考えることはできないという意見が出された。また、中野 (帝京大) より Post-drawing inquiry について質問されたが、集団法なのですべてに施行されたわけでないとのべた。

944 (井上) に対しては、家の表裏をかかせる二面法のアイディアの根拠について、中西 (阪大) より質問され、表面だけではステレオタイプな反応しか示されないの、紙を裏返して、表からみた家の反対側を書かせたら多くの変化のある反応が求められたと答えた。

空井 (中京大) は開指標として「12透明」「13破流」「3とびら開放」などに同一得点を与えている理由について質問したが、開指標にも Positive なものや、negative なものがあるので、今後は質的相違を重視したいとのべた。

945 (小田) に対して、岩田 (大宮厚生病院) が抄録中の「屈折した情意的態度」についての実証的研究はあるのか、また「誤認」という以上は判断力や理解力についてこれまでの研究報告でなされたかの質問がなされたが、これについて、検事調書、訊問、論告などから明らかであり、また、テレビでの平塚八兵衛元刑事の批判からみても、正常な判断力の持主とはいえないとのべた。

946 (中野) については Anorexia nervosa と分裂病は類似点がみられ、本報告の事例5は分裂病といっても間違いとはいいきれないという補足的な意見が出された。

947 (山口) に対しては、岩田 (大宮厚生病院) から、話題呈示による時系効果を相殺するために3ブロックを設けたとあるが、Fig.1の5段階の数値はこの3ブロックの平均値か、という質問がなされた。これについて山口より、セッションは12セッションあり、時系列効果を相殺するため第4~6第7~9第10~12の3ブロックを設け、それぞれのブロックの終りに解答不可能な問題を入れ、解答不可能な問題が第5, 8, 11セッションにくるように配慮した。また第5, 8, 11にくる問題が被験者ごとに異なるようにした、という回答があった。